



保育サロン
たんぽぽ

たんぽぽだより

2019年6月号

日差しが心地いい季節となりました。お天気のいい日は外遊びにお散歩にと、自然と共に過ごしています。

6月は長崎県では『いのちを考える月間』です。

「いのちについて話をする」と言うと大げさに聞こえますが、一番身近な食べるということについてご家族で話してみませんか？

私たちはいのちを頂いて生きています。

食材そのものの命だけではなく、それを育てた人の手間・調理してくれた人の手間・それを買うために働いてくれている保護者の皆様の手間あらゆるすべての人たちの手間がかかっています。それがいのちとつながっていきます。

手間＝時間＝いのちです。

たんぽぽではいただきますの前に『いのちをありがとうございます』と言います。すべてのいのちに感謝できるように、あえて短い言葉にしています。この言葉の意味について家族で話していただけたら嬉しいです。

そして子ども達にいのちを大切にしましょうと伝える前に、ご自分たちのいのちは大事にしていますか？

自分のいのちを大事にするとは、お母さん・お父さん自身が生き生きと・楽しく過ごしている事です。「楽しいなー」「幸せだなー」という姿を見せて行く事で、子ども自身の未来が明るくなります。

子ども達に明るい未来を見せるためにも、自分のいのちを大事にして、楽しい・嬉しい事をたくさんして行ってください。子ども達にとってもそれが幸せを感じる事だと思います。

4月～5月までの苦情・ご提案について

特にありませんでしたが、交通事故や通り魔事件など子ども達のいのちについて考える事件が5月は多くありました。

たんぽぽでは禁止や困ってしまう事が解決に結びつくとは考えません。もっと開かれることから自分でいのちを守るようにしていく事が大事だと考えます。

それには地域との交流がやはり大事です。地域の方に見守っていただけるような保育園づくりをしていきます。

保護者の皆様も地域の方々へのあいさつ等よろしくお願ひいたします。

おねがい

- ・登園時は、運動靴での登園をお願いします。
- ・ゆり組は雨の日は長靴と傘のお願いします。

今月の目標：いのちをありがとう

ねらい：自然の様子・生き物に興味を持つ

つぼみ組【0歳児】：自然の様子に触れ、自然の心地よさを感じる。雨の日も楽しもう。

もも組【1歳児】：興味のある場所を自ら探索して遊ぶ。天気の良い日は散歩に出かけ、自然に触れる。

ゆり組【2歳児】：いのちをありがとう～ありがとうがいっぱいいえるようになるろう

6月の保育内容

養護

つぼみ組：梅雨期の健康に気を付け、肌の清潔・水分補給を心がけ快適に過ごせるようにする。保育者とスキンシップを図りながら、お部屋の中に居場所をつくり、安心して生活する。

もも組：梅雨時期の衛生面に配慮しながら、快適に過ごせるように配慮する。子どもと同じ目線で一緒に遊んだり、喜んだりして様々な出来事を共感する。

ゆり組：食事や排泄・午睡など一人一人に合った対応をして安心かつ快適に過ごせるようになる。欲求や不安を保育士に受容してもらい安心して事故が表せるようにする。

教育

つぼみ組：保育者や友だちと探索活動を楽しみ、砂や石、葉っぱに触れてみようとする。・小動物の様子を見て存在を知る。・泣くことで自分の気持ちを表現しようとする。・ふれあい遊びやわらべ歌を通して保育者とのやり取りを楽しむ。

(1歳児)ずり這いやはいはいなど、自分の能力に応じて体を動かし移動することを喜ぶ。一人ひとりに合わせて食べる量に配慮し、離乳食を進めていく。・咀嚼を楽しみながら食べる。食後は手や顔を拭き、気持ちよさを感じる。保育者や友だちに関心や興味が少しずつ芽生え、模倣して楽しく遊ぶ。生活の中で使うあいさつを真似してやってみようとする。・様変わりして方法で自分の気持ちを相手に伝えようとする。・保育者と一緒に絵本を見て楽しむ。

(6カ月児)抱っこされると安心する。・身体を動かすことを喜ぶ。哺乳瓶に慣れる。・落ち着いた雰囲気の中でミルクを十分に飲む。声や音に反応して、人の顔を見つめたり、追視したりする。ゆったりした関わりの中で声を出して楽しむ。

もも組：午睡から目覚めたらトイレに行って便器に座ることに慣れるようにする。保育者の仲立ちで友達と関わったり言葉を交わしたりして楽しく過ごせるようにする。音の出る玩具や季節の虫など保育士の真似をしたり、一緒に身体で表現させるようにする。

ゆり組：楽しい雰囲気の中で自分で食べようとする気持ちを大切にしながら援助していく。一人一人の健康状態を把握し、食事・睡眠・排泄のそれぞれのリズムにあった生活ができるようになる。・子ども同士の関わりを大切に見守り、衝突した時など保育士が仲立ちとなりあやまることができるようになる。自分の気持ちを言葉で伝えようとする。ありがとうが自然と口に出せるようになる。・雨の日も楽しめることを知らせ梅雨ならではの雨の日の散歩にでかけ雨音を聞いたり触れたりする。・歌と手話の融合を楽しむ。